

コロニー中央病院だより

相談体制の充実により医療と福祉に架け橋を ～地域支援課相談支援グループの始動～

平成28年4月からコロニー中央病院指導相談部は、「運用部地域支援課相談支援グループ」となり、旧機能訓練センター3階へ引っ越ししました。このグループは、もともとコロニー内にあった運用部療育医療拠点整備推進課とこぼと学園支援課の一部、外来にあった在宅看護相談室が合体したものです。メンバーの職種は、事務2名、看護師2名、社会福祉5名の計9人です。

業務の内容は、医療費や福祉制度、ショートステイやレスパイト入院の受付や相談、院内学級手続きの窓口、在宅医療に関することや訪問看護に関すること等で、元々中央病院の指導相談室、在宅看護相談室で対応してきたすべてのことに対応できます。加えて、こぼと学園やはるひ台学園のショートステイや入所についての相談、入所者の地域移行に関する相談もこのグループですることができます。

新しく地域支援課相談支援グループとなったことで、パワーアップしたこともたくさんあります。1つ目にショートステイについてです。例えば重症心身障害児者の方は、これまで中央病院とこぼと学園とでそれぞれ相談をしなければなりませんでした。新しいグループになり窓口も統一されたため、一度に相談できるようになりました。2つ目は相談体制についてです。これまでは、ケースワーカーが2名しかおらず、相談室を不在にすることが時々あり、ご迷惑をおかけしたと思いますが、スタッフが9名となり、必ず誰かが部屋にいて受付をすることができるようになりました。3つ目は医療と福祉の連携です。相談支援グループには、社会福祉の専門職だけでなく、看護師も在籍しているため、必要に応じて情報共有をしたり、お互いにアドバイスを受けるなど、連携をよりスムーズにできるようになりました。“医療”や“福祉”の片方だけでは解決できないことも、両方がタッグを組むことで、よりよい方法を見つけることができるようになりました。

地域支援課相談支援グループができた当初は、対応に慣れないスタッフばかりで、相談に来られた方々には多くのご迷惑をおかけしたと思います。9か月が経過し、だんだんとスタッフも仕事に慣れてきたことで、“チーム力”がぐんと上がったと感じています。時々、意見がぶつかり合うこともありますが、それが相談者にとってよりよい解決方法を導き出す糧となっていると信じ、これからもスタッフ全員で頑張っていきたいと思っています。

相談は、いつでもお受けすることができますが、事前に予約をとっていただくと時間をとってより実のある相談にできると思います。困ったことがあったら、とりあえずまず地域支援課相談支援グループへお越しください。お待ちしております。

(地域支援課相談支援グループ 小崎祐美子)



第5回重症心身障がい児者の 呼吸器ケア研修会

医療技術の進歩とともに重度障害をもち呼吸障害を併せもつ患者さんたちへの医療的なサポートできる選択肢が飛躍的に増えてきました。病院内だけではなく在宅でも比較的容易に導入・継続できるようになり、学校・通所施設などでも医療的ケアを要する障害児へのサポートの必要性を訴える声がより高まってきています。しかし、多くの医療スタッフは重症心身障がい児者の診療ノウハウや医療技術を学ぶ機会はそれほど多くないのが現状です。



本研修会は平成24年から愛知県内の医療機関向けに障がい児者の呼吸障害における診療ノウハウを学んでいただく機会として医師・看護師・訓練士向けに行って来ました。本年度は平成28年11月27日(日)に東海3県の障害児者医療に関わる医療機関から多くの医療関係者の方々のご参加をいただき、本会を開催することが出来ました。内科医師・外科医師・理学療法士の各分野の立場から「障がい児者の呼吸障害」をテーマに講義を行い、その後、医療機器体験コース(在宅人工呼吸器紹介、パーカッションベンチレーター・バギング吸入体験、スマートベスト体験、マスクでの人工呼吸器療法体験、排痰補助装置体験、気管カニューレの紹介)と呼吸理学療法コースの2班にわけて実習を行いました。



半日間のタイトなスケジュールながら、多くの参加者から「有意義な時間になりました」との声をいただきました。今後も医療的ケアを必要とする障がい児者への当院の取り組みを知っていただき、安定した医学的管理を病院・施設・在宅などで行っていただけるよう貢献していきたいと思えます。

(呼吸器ケアサポートチーム委員会 山田桂太郎)

平成28年11月、過去に入院された患者さんのご家族からクリスマスツリーを寄附していただきました。
外泊外出が難しい患者さんや看病に來られるご家族の方々が、少しでも心の安らぎになればという思いで、設置から飾り付けまでしていただきました。
クリスマスツリーは、外来ロビーに設置され、天井いっぱいの高さまである立派なものでした。また、ライトアップが綺麗で、通りかかる人の目を引き、心癒される光景でした。



中央病院を彩る
クリスマスツリー

診療科の「ここ見て!!」 アピール⑤:整形外科

ここ アピール1

【脳性麻痺の治療】

軽度の麻痺の方から、重度の方まで、幅広く治療を行っています。その治療法、治療時期は重症度、年齢により様々です。望ましい治療時期を逃さないためにも、早い時期に受診しご相談ください。ボツリヌス治療も多くの患者さんへの実績があります。

ここ アピール2

【小児整形外科】

当院は障害児(者)医療の病院として知られていますが、整形外科では一般的な小児整形外科疾患の治療も積極的に行っています。お子さんの手足、関節、脊椎に関して心配な事がありましたら、ご相談ください。

ここ アピール3

【二分脊椎・神経筋疾患の治療】

運動機能の向上や、変形の改善を目的に訓練、装具、手術療法等を行っています。また、合併症として多い褥瘡の治療にも対応させていただきます。

ここ アピール4

【骨系統疾患】

骨形成不全症の頻回の骨折や変形、軟骨無形成症の低身長に対する脚延長のように、骨系統疾患に起因する症状を軽減するため、手術療法、注射療法等を行っています。

ここ アピール5

【成人後の整形外科治療】

運動機能障害のある方の成人後の二次的な機能障害や、知的障害・自閉症などを有する方の整形外科疾患等の診療も行っています。

What is

認定看護師 ⑥



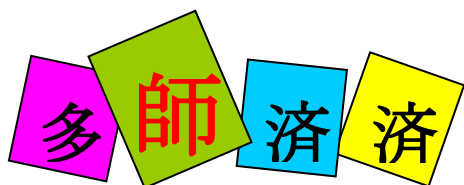
慢性呼吸器疾患看護認定看護師 安江昌子

慢性呼吸器疾患看護認定看護師(以下、CRCN)は成人を対象とした呼吸器疾患の患者さんへの関わりが主で、研修でもその講義が主です。しかし、実際には重症心身障害を対象とした病院・施設で勤務しているCRCNもいるため、重症心身障害を持っている方でも必要とされる分野なのだろうと感じています。

当院では、以前は筋ジストロフィーの方が主だったNPPV(鼻マスク)の導入や、カフアシストを代表とする排痰補助装置の導入対象が広がってきていると感じています。医療機器の導入は、患者さんをケアされるご家族にとっては負担になることもあります。しかし、上手に利用できれば、患者さんの状態の安定化やケアの負担軽減、QOLの改善につながる可能性があります。新たに導入したこと全てが満足で何の文句もない!ということはないかもしれません。しかし、患者さんやご家族にいかにもうまく利用してもらえるか、よいと思ってもらえるかを念頭に置き、少しでも楽に息ができるように看護として関わりたいと思っています。在宅でケアが継続できるよう、今後も試行錯誤しながら関わっていきたいと思います。



スタッフ紹介



整形外科 野上 健

自分が当院に赴任してから約四年半が経過しました。

コロニーに勤務する以前は小児病院を二施設経験していましたが、各施設の特徴は様々で、最初の施設である大府の小児センターでは一般小児整形外科疾患を、二つ目の施設である第二青い鳥学園（現、三河青い鳥医療療育センター）では比較的軽度な脳性麻痺児を治療の主体としていたため、当施設で初めて本格的に重症心身障害児者の治療に接するという状況でした。

そのため、当初はとまどい、周囲の皆様に助けていただくことが多かったと思います。感謝の気持ちを十分にお伝え出来ていませんでしたが、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

さて、当院で得た経験としてまず挙げられることは、やはり重心児に対する治療に接したことです。その他に、脳性麻痺児に対する手術後の長期経過を診ることができたことも挙げられます。これは当科の特徴として、成人後も装具、書類等のため関わりをもっている方が多いこと、また、こぼと学園という成人後も対象とした重心施設が隣接することのおかげと考えます。脳性麻痺児に対する整形的治療法の評価は、その多くが治療後5～10年経過時の成績を基に行われますが、20～30年経過後の成績で検討することが望ましい症例も多いと感じます。そのため、当院のように長期経過をみることが出来る環境は貴重であり、自分としては、この機会を無駄にしないよう、学んだことを還元できるよう、力及ばずながらも努力していきたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

～問診票～

- 出身地はどこですか？
春日井市
- コロニー在籍何年ですか？
5年目
- 趣味は？
テニス
- 血液型は？
O型
- 猫と犬どちらが好きですか？
犬
- マイブームは？
うさぎ
- 最近、気になるニュースは？
コロニーの改築
- コロニーで好きな所は？
ノスタルジックな建築物

■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。